

平成 21 年 11 月 27 日

住まいづくり支援建築会議 情報事業部会議事録（案）

日時：平成 21 年 11 月 27 日（金）19 時 45 分～21 時 20 分

場所：本会 306 会議室

出席者：幹 事 小檜山雅之（記録）

委 員 水津牧子，吉川徹，渡邊朗子

事務局 川田昭朗

■資料

No.4-1 2009 年 10 月 1 日 情報事業部会議事録（案）

No.4-2 2009 年 10 月 27 日 運営委員会会議事録（案）

No.4-3 『長く暮らすためのマンションの選び方・育て方』の印税配分率（編集WG案）

No.4-4 住まいづくり市民セミナー@仙台開催報告ウェブページ

No.4-5 「新築マンションを選ぶときには」ウェブページ

■審議

1. 前回議事録（資料 4-1）

承認された。

2. 運営委員会報告（資料 4-2）

- ・各部会報告と審議事項について水津委員から報告があった。
- ・市民講座を本会ホームページで公開することが検討されている。
- ・全体会議が 2010 年 3 月 17 日（水）13～17 時に開催される。
- ・住まいづくり支援建築会議の改組に関する審議が行われた。幹事会で原案を検討する。

3. 運営委員会幹事会報告

- ・11 月 26 日，1 月 13 日，2 月 10 日の 3 回の幹事会で改組案を検討する。
- ・支援事業部会が登録会員に参加希望等に関するアンケートを行う予定。
- ・国土交通省「長期優良住宅モデル事業」応募団体からの協力依頼があった件について，3 月 3 日運営委員会のとおり，上記は競争的事業であり中立性の観点から本会では依頼には添えないとの回答をすることになった。

4. ブレーメン型地域コミュニティづくりモデル事業「コミュゼミ」報告

- ・上記市民講座について，10 月 24 日（土）14～16 時に京葉銀行文化プラザ 7 階会議室で開催されたことが小檜山幹事から報告された。
- ・7 名の市民の参加があり，活発な質疑があった。

5. 『長く暮らすためのマンションの選び方・育て方』の印税の配分率について（資料 4-3）

- ・2 ページを 1%として 1%単位で丸め，編集 WG メンバーに 2%を配分，編集 WG 主査

に残りの 2%を配分する編集WG案が示された。

- ・事務局締め切りが 11 月 10 日であったため、上記の編集 WG 案について通信審議を行った結果、了承された。

6. 「住まいづくり市民セミナー@仙台」ホームページについて（資料 4-4）

- ・中田部会長の記録をもとに開催報告のウェブページを作成した。
- ・講師の方々のチェックと修正を 11 月 25 日に完了し、本会ホームページで公開した。

7. 住まいづくり市民セミナー@富山について

- ・富山県建築住宅センター小林英俊専務理事から中間状況の報告があり、現在は連絡待ちの状態である。
- ・規模を例えば 30 人程度とあまり大きなものとせず、無理のない範囲で開催準備が進められるよう助言することとなった。
- ・司法支援建築会議の建築紛争フォーラムは大会 3 日目の 9 月 11 日（土）午後で開催されることになった。専門家を対象としている。

8. 「新築マンションを選ぶときには」ホームページ HTML 化について（資料 4-5）

- ・本年度予定していた 2 章までの HTML 化をほぼ完了した。
- ・残りの 3 章・4 章については、今年度の予算で作業ができるよう、運営委員会で提案する。

9. 住まいづくり支援建築会議の改組について

- ・改組に関して運営委員会幹事会で提案するため議論を行った。下記の意見があった。
部会・WG の組織について
 - 住まいづくり支援建築会議とまちづくり支援建築会議が一緒になることについては、効果があまり期待できない。まちづくり支援には市民向けと自治体向けがあり、市民向けのまちづくり支援は、私財である住まいづくりの支援と大きく異なったものである。
 - 組織を壊すとまずい面もある。合併すると粗くなり、きめ細かいサービスができなくなる恐れがある。
 - 情報事業部会と支援事業部会の 2 部会の体制が検討されているが、関東部会、関西部会の 2 部会としてはどうか？ 住まいづくり支援は地域ベースである。
 - 情報事業部会と支援事業部会の棲み分けをよりはっきりすべき。セミナーの開催や支援は支援事業部会の活動とすべき。
 - 実働できる人を探す必要がある。部会・WG 組織にはベテランの登録会員以外に幹事業務などをこなせる若手が必要。
 - 分野に関して、メンバーのバランスを考慮すべき。現在の情報事業部会は非常にバランスがよい。
 - 情報事業部会が現メンバーで継続するとすれば、現状と同じレベルの活動が可能だが、それ以上となると難しい。

事業要素について

- うまく出ている芽を使って、事業の刈り込みと資源の集中を行うべき。
- 市民に提供するサービスとして、ウェブ公開，書籍出版，セミナー開催はわかりやすい。相談は個別の案件に関わらざるを得ないため，あきらめてはどうか？
- 直接市民に対応するのか，それとも会員を支援するのかはつきりさせるべき。学会は組織のルール上，直接市民とインタラクティブに対応するのは難しいのでは？
- これまで，コンテンツを集め，整理して公開する活動を行ってきた。今後もこの活動をチェーンアップして行うべき。
- マンションに関しては，第一回目の改修を迎えるものが数多く存在しており，中古マンション売買，長寿命，リフォーム・改修といった項目が重要になってくる。マンションに関して継続的に情報発信を行う WG が必要。
- 学会は先端知識が集まっている。環境技術や高層マンションに関する知識は必ずしも市民に届いてはいない。ニーズをつかむ事業，ニーズとのマッチングを行う事業を行うとよい。
- 本来，中立は難しい。エビデンスベースで冷静に批判を行う高層マンション WG があってもよい。
- 登録会員の支援は，建築士会の仕事とオーバーラップしないか？

以上